2026年の生産量が13.2%増加、ウルグアイのワイナリーで余剰在庫が拡大

国内消費の低迷で家族経営の生産者の資金繰りが悪化し、次の収穫を前にブドウ栽培農家にも新たなリスクが生じている

2026年11月10日（火）



生産量と販売量の差が広がるなか、ウルグアイのワイン産業は圧力の高まりに直面している。2026年は生産が増加した一方、国内需要は低迷し、輸出にも不透明感が加わった。

10月28日に公表された業界データによると、2026年の国内ワイン生産量は7,039万リットルとなり、2025年から13.2%増加した。ブドウの収穫量は約9,320万キログラムだった。市場がより好調であれば、この回復は明るい兆しになり得た。しかし実際には、国内市場のワイン吸収量が減るなか、多くのワイナリーが売れ残った在庫を抱えている。

とりわけ厳しい状況にあるのが、中小規模のワイナリーだ。その多くは家族経営で、資金調達の手

段も限られている。ワインが売れずに在庫として残れば資本が拘束される一方、企業は賃金、電気料金、維持管理費、税金、債務返済、保管費用を負担し続けなければならない。季節ごとの資金繰りに依存する生産者にとって、動かない在庫は急速に流動性の問題へと発展しかねない。

4月、ウルグアイ畜産・農業・漁業省と、INAVIの通称で知られる国立ブドウ栽培研究所は、国内消費の減少と在庫の増加を業界の主要課題に挙げた。当局によると、一部のテーブルワインのカテゴリーで消費の落ち込みが特に顕著になっている。

現在の需給不均衡はまったく新しい問題ではないが、最近の数字からは対応が一段と難しくなっていることがうかがえる。2025年2月の国会での説明で、当局者は150を超えるワイナリーが販売の難しい余剰在庫を抱え、100を超える生産者家族が影響を受けていると述べた。これらは当時の数字で、最新の報告では更新されていないが、問題が長期にわたって積み重なってきたことを示している。

リスクは売れ残ったボトルにとどまらない。ワイナリーには次の収穫分を保管するスペースが必要であり、在庫が高止まりすれば、ブドウの購入を減らしたり、投資を先送りしたり、次期の生産計画を縮小したりする企業も出てくる可能性がある。買い手が少なく、交渉力も限られるブドウ栽培農家にとって、これは直接的な脅威となる。

ウルグアイ最大のワイン産地であるカネロネス県は、こうした懸念の中心にある。同地域は国内のブドウ畑とワイナリーの大部分を支え、ブドウ栽培やワイン造りに携わる家族の労働が何世代にもわたって受け継がれてきた。販売不振はワイナリーの財務だけでなく、栽培農家が次の作付けに必要な資金を確保できるかどうかにも影響する。

輸出環境も新たなリスクを加えているが、それがワイン出荷に及ぼす影響の規模は明らかになっていない。ウルグアイ輸出業者連合は9月に公表した調査で、2026年の最初の数カ月に港湾業務が全面または部分的に混乱した期間は計40日に上ったと報告した。同団体によると、輸出産業全般で寄港の中止、遅延、出荷予定の変更、物流コストの上昇が発生した。

ワイナリーにとって納期の確実性は重要だ。海外の買い手は安定した供給と期日どおりの出荷を求める。しかし、影響を直接受けたワインのコンテナ数や、遅延したワイン輸出量を示す情報は公表されていない。こうしたデータがない以上、在庫の積み上がりを主に港湾の混乱に帰することはできない。物流上の問題は、消費の低迷や販売面の構造的な課題が引き起こす広範な危機に、さらなる障害を加えているとみられる。

国内市場はもはや、生産物を安定して受け入れる出口とは言えなくなっている。当局者や業界関係者は、世代交代に伴う飲酒習慣の変化、消費者の嗜好の変化、他の飲料との競争を指摘している。この変化の影響はブドウ畑だけにとどまらない。飲料業界全体にとって、需要の変化がワインの供給と販売の均衡を急速に崩し、運転資金を圧迫し、ブドウの購入判断に影響を与え、酒類事業者の構成を変える可能性があることを示している。

ウルグアイのワインは国際的に品質が評価されており、とりわけタナは高い評価を得ている。輸出市場で地位を築いたワイナリーも複数ある。しかし、こうした成果は業界全体に均等に広がっているわけではない。大手生産者は、より潤沢な資金余力や幅広い輸出網を持ち、事業を多角化する余地も大きい。一方、小規模ワイナリーは、価格競争が激しく消費動向も不利な従来市場に依存し続

けているケースが多い。

こうした立場の差は、現在の圧力が続けば業界再編のリスクを高める。中小規模のワイナリーは、在庫を抱え、事業を運営し、より高付加価値の商品や新市場への進出に必要な変革に投資することが難しくなる可能性がある。生産者が苦境にあることを示す兆候はあるものの、実際に廃業した事業者の数は、包括的な公的記録ではまだ更新されていない。

当局は、事業転換プログラム、競争力強化策、ウルグアイワインの国際展開を広げる戦略を提案している。しかし、業界が必要としているのは長期的な対策だけではない。在庫水準の最新調査や、どのワインカテゴリーで余剰が最も大きいかを示す明確な情報、特に影響を受けやすいワイナリーの財務状況をより正確に把握することも求められている。

短期的な対策も必要になる可能性がある。たとえば、輸出業者が過度な追加費用を負担せずに海外からの注文に応えられるよう、信用支援や販売促進、代替物流手段を整えることだ。中心的な課題は、ウルグアイがワインの生産量を減らすべきかどうかだけではない。供給過剰によって栽培農家やワイナリー、さらには周辺の事業ネットワークが弱体化するのを防ぐため、業界が販売チャネルと商品構成を十分な速さで調整できるかどうかである。